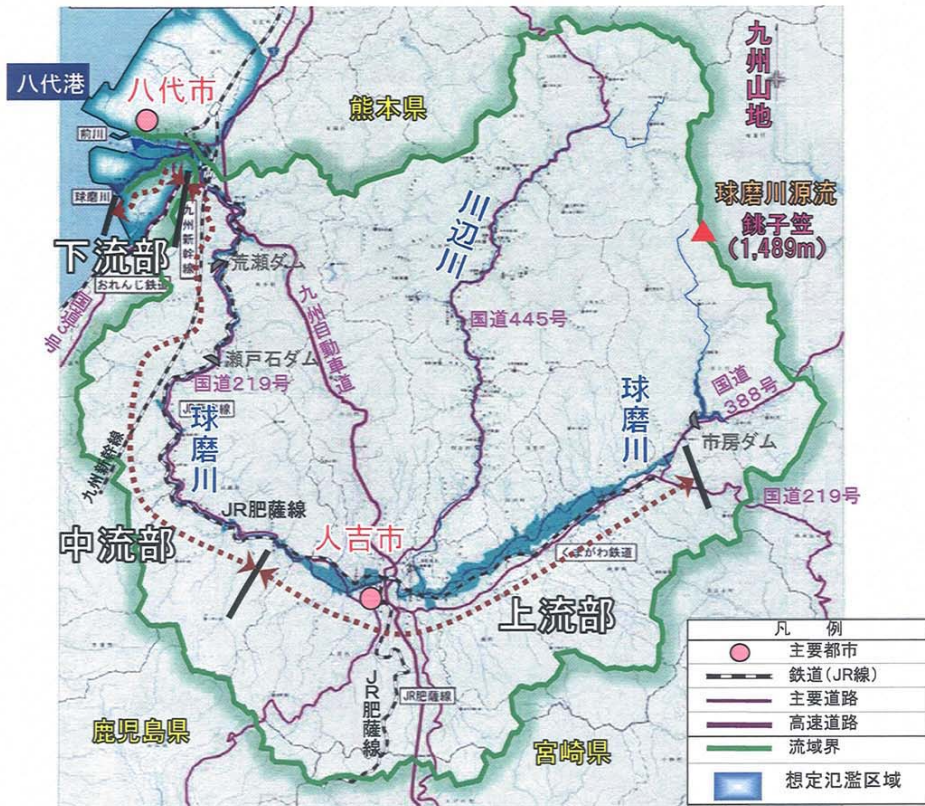


流域の概要、主な洪水実績と治水計画の変遷

出典： 第56回球磨川水系河川整備基本方針検討小委員会 参考資料3 抜粋

- ・球磨川流域の面積は、熊本県土の約1/4
- ・流域内人口は、熊本県人口の約1割
- ・球磨川の下流に位置する八代市は熊本県第2の都市であり、九州の南北を繋ぐ交通の要所
- ・上流部人吉市は九州の小京都と呼ばれる球磨地方の中心都市

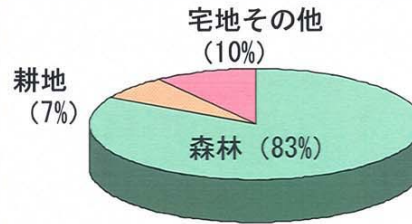


【球磨川の諸元】

- ・流域面積 : 1,880km²
- ・幹川流路延長 : 115km
- ・流域内市町村 : 4市5町5村
- ・流域内人口 : 約14万人
- ・流域内一般資産額 : 約1.8兆円
- ・想定氾濫区域内人口 : 約14.5万人
- ・想定氾濫区域内資産 : 約1.9兆円

土地利用

- ・球磨川流域では8割以上が森林
- ・人口・資産は、下流の八代市及び上流の人吉市に集中



市町村別人口構成	八代市	人吉市	その他
市町村別人口構成	53%	16%	31%
市町村別一般資産額	八代市	人吉市	その他
市町村別一般資産額	52%	18%	30%

※流域内及び想定氾濫区域内の市町村について作成。八代市は、旧千丁町・旧鏡町を含む

産業

【工業等】

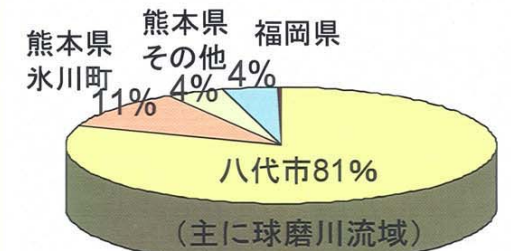
- ・下流の八代市では、球磨川の水を利用した製紙業、金属製品業等の工場が立地。
- ・河口付近の八代港は、重要港湾、貿易港等に指定され、南九州開発の拠点工業港として発達。



球磨川河口付近に位置する八代港

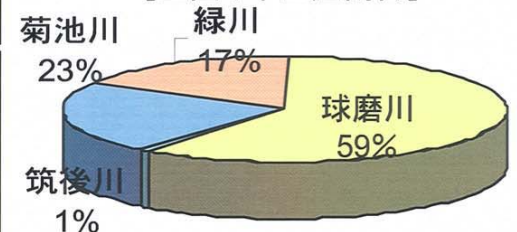
【農業等】

- ・氾濫原の八代平野では、米・イ草の二毛作が盛ん。最近ではハウス栽培が盛んで、トマトの生産高は県内1位。
- ・上流部は穀倉地帯を形成。米焼酎造りが盛ん。



(主に球磨川流域)

【全国イ草生産割合】



[熊本県アユ漁獲量]

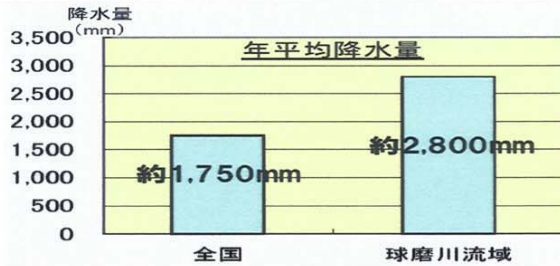
【その他産業】

- ・球磨川におけるアユの漁獲量は、熊本県内の約6割を占める。
- ・日本三急流と称され、球磨川下りは全国的に有名。アユ釣り、温泉と併せ、人吉・球磨地方の観光のシンボル。

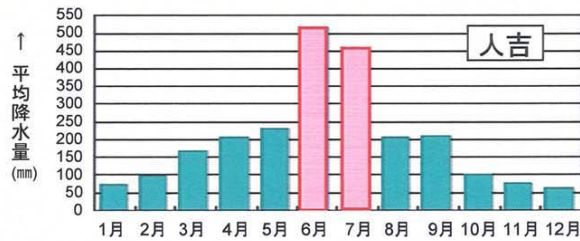
流域の概要(気候特性)

球磨川水系

球磨川流域は降水量が多く、年平均降水量は全国平均の約1.6倍に相当する約2,800mm。



降雨の大半は梅雨期に集中。



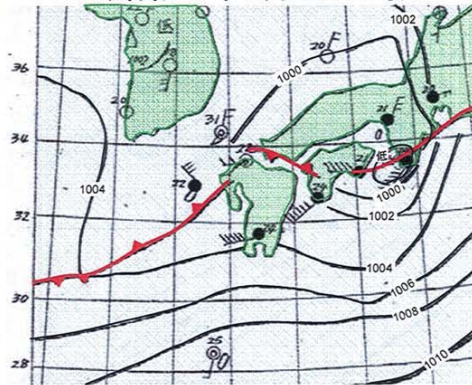
流域図(観測所位置図)



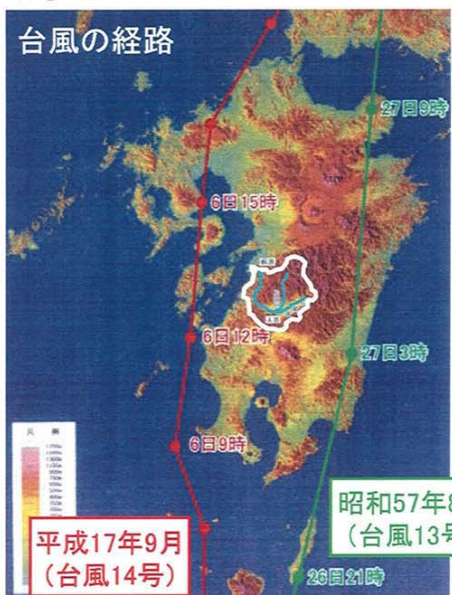
- ①梅雨前線が停滞し流域全域で長期的に降り続き、短時間降雨・総雨量も多い傾向。
- ②台風の北上に伴い、九州山地に接する上流域で降雨が多い。特に、九州の西岸を北上した場合、短時間降雨・総雨量とも多い。一方、九州の東岸を北上した場合は比較的少ない傾向。

【①梅雨性の降雨状況】

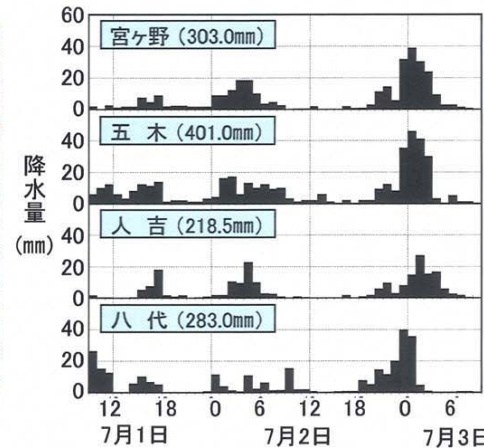
S40の前線の状況 (昭和40年7月3日6時)



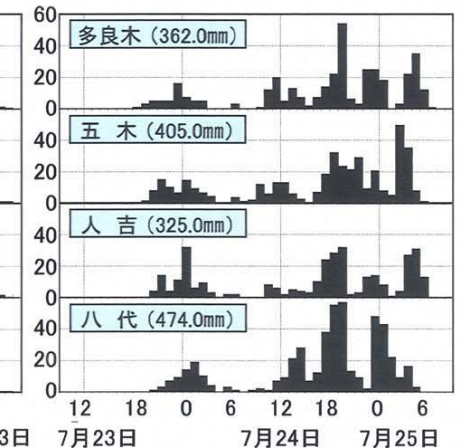
【②台風性の降雨状況】



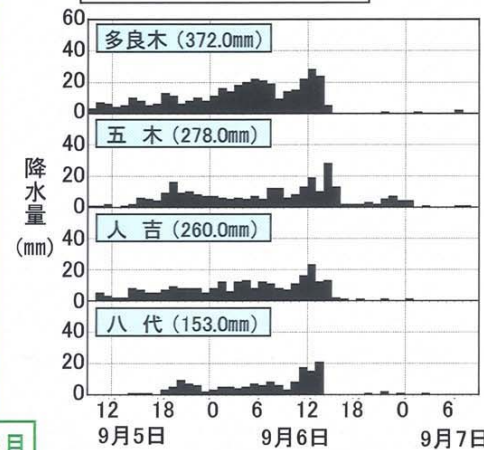
昭和40年7月洪水



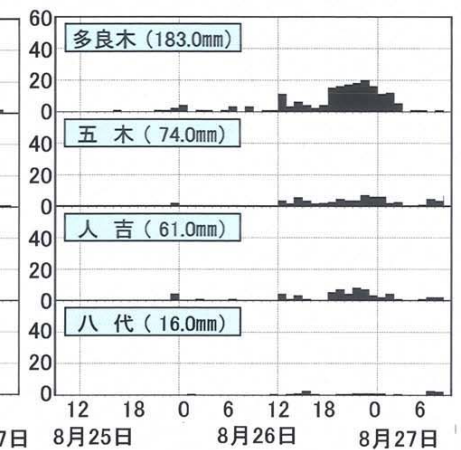
昭和57年7月洪水



平成17年9月洪水



昭和57年8月洪水



※上記の()内は、2日雨量

流域の概要(地形特性)

球磨川水系

①下流(河口)部



○八代海の干満の影響を受け干潟形成

②下流(平野)部



○扇状地／干拓で広がった低平地
○山間狭窄部の出口で大きく湾曲
河床勾配：約1/7,000

③中流(山間狭窄)部

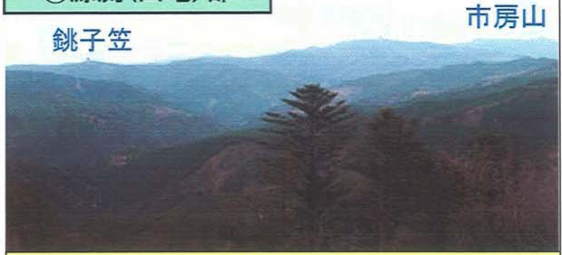


○約43kmの長区間にわたる山間狭窄部
○河床勾配：約1/300~1/1,000

- 流域の地形は、下流部の「河口部」「平野部」中流部の「山間狭窄部」、上流部の「盆地部」「源流部(山地)」に大別
- 人吉盆地で支川川辺川が合流
- 盆地部の末端において川幅が絞り込まれ、その後山間狭窄部を流下
- 山間狭窄部を抜けると扇状地が広がり、扇頂付近で流路が北から西へ変化



⑥源流(山地)部



○球磨川源流：熊本県球磨郡
水上村銚子笠(1,489m)

⑤上流(盆地)部



○本川とほぼ同規模の流域面積を持つ
最大支川川辺川が合流
○河床勾配：1/500~1/700



④上流(盆地)部

○盆地を貫流後、山間狭窄部へ流下